

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 清琉会

# 社会福祉法人 清琉会

## 令和5年度 事業報告書 目次

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| ● 総括                  | P1  |
| ● 法人動向                | P2  |
| ● 玉川グリーンホーム           | P5  |
| ○ 介護事業部               |     |
| ◆ 施設相談課（入所相談担当）       |     |
| ◆ 施設介護1～3課（介護担当）      |     |
| ◇ 本館特養1係              |     |
| ◇ 本館特養2係              | P6  |
| ◇ 新館特養1係              |     |
| ◇ 新館特養2係              | P7  |
| ◇ ユニット特養1係            |     |
| ◇ ユニット特養2係            | P8  |
| ◆ 在宅介護課               |     |
| ◇ 居宅介護支援係             |     |
| ◇ 通所介護係               | P9  |
| ○ 総務部                 |     |
| ◆ 総務課                 |     |
| ◆ 栄養課                 | P10 |
| ◆ 医務課                 |     |
| ● 高松山グリーンホーム          | P11 |
| ● 愛甲グリーンホーム           | P12 |
| ● 小町山グリーンホーム          | P13 |
| ● 厚木市玉川・森の里地域包括支援センター |     |
| ● 地域貢献事業等             | P14 |
| ● 委員会活動               |     |
| ○ 育成委員会               |     |
| ○ 介護技術向上委員会           | P15 |
| ○ サービス向上委員会           |     |
| ○ 事故防止検討委員会           | P16 |
| ○ 拘束廃止・虐待予防実践委員会      | P17 |
| ○ ICT推進委員会            | P18 |
| ○ 環境衛生委員会             | P19 |
| ○ 防災対策委員会             | P20 |

## 令和5年度 総括

介護業界に限らず様々な分野において労働力の不足・減少が叫ばれる中、職員一人ひとりの生産性を高めるため、令和5年度は「個人の成長とチーム力の向上」を第一に掲げてきました。日々の業務一つひとつについて、その目的、手法、確認、見直しを繰り返しながらチームとしての取り組みを模索して業務に当たりました。上手く出来た事は更に上手く出来るように、目標に到達出来なかつたり、期待通りの成果があげられなかつたりした事についても、今の自分達を客観視するデータにして行くなど、どんな事柄どんな結果であっても、次に繋げることを意識して取り組んで来ました。

しかし、実際にどの程度成果としてあげられたかは心許なく、コミュニケーションの手法一つ取っても、改善すべき点が多くあると感じています。対人サービスの基本でもあるコミュニケーションについて、ご利用者やご家族とは勿論ですが、それ以前に職員間のコミュニケーションについて、今一度確認すべきと研修を充ててきました。一人ひとり価値観も違えば、物事を考える時の尺度も違います。「みんな違ってみんないい」それも一つの事実ですが、組織（チーム）として業務に当たる際には、ベクトルを合わせなければなりません。その為には介護過程やケアプランなど、それぞれの職務において基準となるものを明確にして、必要に応じ職員に対する説明責任も的確に果たさなければなりません。今年度までを含め未だ至らない点と猛省し、まず目的意識から共有。その上で個々の職員の持つ強みを活かしながら、チーム力の向上を図って行きたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月に感染症法上の分類が変更され社会全体の対応については大きな変化が見られました。一方で私達高齢者介護の分野に関しては、引き続いての感染予防に対する取り組みが求められ続けています。ご利用者やご家族には十分ご理解・ご協力いただいている所ではありますが、中にはどうしてもご希望通りに対応出来ない事例もあり、心情的には理解出来ても他のご利用者の事なども考慮した上の事とはいえ大変申し訳なく思いました。

以前に比べますと重症化される方はほとんど見られなかったのですが、やはり感染力は強く、実際に法人内の事業所においても感染者が出てそこから拡大してしまう事例が今年度も発生してしまいました。集団生活故の難しさを痛感しています。

次年度以降も様々な事柄について“変化”が想定され、それぞれに的確に対応して行かなければなりません。苦勞し、辛いこともあると思いますが、後に振り返った時には、そう言った苦勞した経験の方が輝いて見えるとも思えます。変化とそれに対応して自分達も変わる事を恐れず、自らを磨く覚悟の必要さを感じる一年となりました。

## 法人動向-

### 理事会開催状況

| 開催日           | 審議事項   | 出席者数 |    |
|---------------|--|------|----|
|               |  | 理事   | 監事 |
| 令和5年<br>5月18日 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度事業報告及び令和4年度計算書類等の承認の件</li> <li>2 次期役員候補者の件</li> <li>2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の件</li> <li>4 定時評議員会の招集の件</li> <li>5 厚木市指導監査に対する改善報告の件</li> <li>6 定款細則改正の件</li> <li>7 給与規程改定の件</li> </ol> | 6名   | 2名 |
| 6月9日          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理事長、業務執行理事の選任の件</li> </ol>  | 6名   | 2名 |
| 令和6年<br>3月21日 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和5年度第一次補正予算（案）の件</li> <li>2 令和6年度事業計画（案）の件</li> <li>3 令和6年度予算（案）の件</li> <li>4 設備資金借入金の借り換えの件</li> </ol>  | 6名   | 2名 |

### 監事監査

| 開催日           | 監査事項   | 出席者数 |
|---------------|--|------|
| 令和5年<br>5月11日 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度理事の業務の執行について</li> <li>2 令和4年度法人の財産の執行について</li> </ol> | 2名   |

## 評議員会開催状況

| 開催日          | 審議事項   | 出席者数 |
|--------------|--|------|
| 令和5年<br>6月9日 | 1 令和4年度計算書類・財産目録承認の件<br>2-1 理事の選任の件<br>2-2 理事の選任の件<br>2-3 理事の選任の件<br>2-4 理事の選任の件<br>2-5 理事の選任の件<br>2-6 理事の選任の件<br>3-1 監事の選任の件<br>3-2 監事の選任の件<br>4 役員の報酬額及び役員等報酬規程の承認の件 | 8名   |

## 調査等実施状況

### ◆介護給付対象サービス運営指導【厚木保健福祉事務所】

実施日：令和5年10月26日

対象事業所：

- (1) 介護老人福祉施設玉川グリーンホーム  
[ サービス種類 ] 介護老人福祉
- (2) 玉川グリーンホーム  
[ サービス種類 ] 通所介護、(介護予防)短期入所生活介護
- (3) ユニット型介護老人福祉施設玉川グリーンホーム  
[ サービス種類 ] 介護老人福祉、短期入所生活介護

出席者：厚木保健福祉事務所保健福祉部保健福祉課 7名、  
厚木市福祉部介護福祉課 2名

## 事業所申請関係

- ◆令和5年度介護職員処遇改善加算・介護職員等特定処遇改善加算・介護職員等ベ  
ースアップ支援加算（令和5年4月）

事業所（サービス）

介護老人福祉施設玉川グリーンホーム（介護福祉施設）

ユニット型介護老人福祉施設玉川グリーンホーム

（介護福祉施設、短期入所生活介護）

玉川グリーンホーム（通所介護、（介護予防）短期入所生活介護）

小町山グリーンホーム（（介護予防）特定施設入居者生活介護）

以上、神奈川県に申請

高松山グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

愛甲グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

玉川グリーンホーム（通所型サービス（総合事業））

以上、厚木市に申請

- ◆介護保険事業所指定更新申請

玉川グリーンホーム（介護予防短期入所生活介護）

指定更新終了日 令和6年 3月 31日

更新申請提出日 令和5年 9月 8日

指定権者である神奈川県の手続きにより、令和5年9月までに申請を行う。

厚木市玉川・森の里地域包括支援センター（介護予防支援）

指定更新終了日 令和6年 3月 31日

更新申請提出日 令和6年 3月 6日

指定権者である厚木市に電子申請にて更新申請書提出する。

- ◆介護保険事業所変更申請

高松山グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

愛甲グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

指定権者である厚木市に運営規程の変更について届け出を行う。

## ●玉川グリーンホーム

### ○介護事業部

#### ◆施設相談課（入所相談担当）

相談業務においては、丁寧な説明を心掛け、相談者の要望に応じた情報を提案できるように努めました。ご入所者、ご家族や法人内事業所からの相談に対して、各セクションと協力しながら情報をとりまとめ、関係各所へ連絡、相談、調整を行い、問題解決に取り組むことができました。また、相談内容については課内で共有し、途切れることなく対応に努めています。

入退所検討委員会を通して、入所の必要性について、身体状況、健康状態、医療処置の必要性、介護者の状況、緊急度等、多様な角度から検討を重ね、入所候補者の選出ができています。法人内の事業所間においては、情報提供書式や提供方法の統一を図り、スムーズな入所へ繋げることができています。

令和5年度は新規入所者49名、退所者47名、と入れ替わりが多くありました。待機者へ早期の面接を実施し入所準備を進め、短期間での入所が出来るように努めております。しかし、連日の退所が続いてしまった際には、空床期間が長くなってしまいうこともあり、空床ベッドの活用として、緊急ショートステイ利用者の受け入れやミドルステイの受け入れを行い対応しています。また、新たな試みとして、法人内グループホームの入居待ちされているご利用者へのショートステイ受け入れなども行い、空床ベッドの有効活用に努めています。

令和4年度末に入所待機者に対し、現状確認、入所の意向確認を行い、待機者名簿の整理を行いました。意向確認を行ったことにより、早急な入所の必要性が把握でき、スムーズな入所に繋がったケースもありました。今後も定期的に意向調査を実施し、待機者名簿を整理、待機者数の把握に努め、適切かつ、迅速な入所に繋げてまいります。

面会については、感染状況に応じて、窓越し面会、直接面会、人数や回数の制限など、その都度、対応を検討し実施しています。ご家族からご要望も多々ありますので、ご意見を真摯に受け止め、感染予防に努めつつ、ご希望に添えるよう面会方法の検討を重ね実施していきたいと思っております。

#### ◆施設介護1～3課（介護担当）

##### ◇本館特養1係

ご利用者が安心した施設生活を送れるよう、ご利用者の心身の変化に注意し職員間で情報共有しながら適切なケアに取り組んでいます。感染予防では手洗いを励行し、衛生管理面にも意識を高めて取り組んできました。感染者の発生が予防出来た

ことは成果と感じています。今後も感染対策を継続しつつ、季節を感じてもらえるようなレクリエーションなどを積極的に実施し、ご入所者のQOL（Quality Of Life：生活の質）の向上にも努めていきたいと思ひます。

課題としまして、ご利用者に対して不適切な言動が散見されました。今一度、介護職としての自覚を持ち、ご利用者の想いに寄り添った言動やケアが行えるよう、具体的な対策を考案し取り組んでいきます。また、ご利用者の重度化に伴い、一つひとつの介助に時間を要するようになり、業務マニュアルの見直しも必要と感じています。職員一人ひとりが意見を出し合い、業務改善、効率化を図り現状にあったマニュアル整備に努めていきます。

看取り対応についてもまだまだ行き届かない部分が多くあると感じています。看取りケアについて理解を深めつつ、医務課や栄養課、相談課との連携を強化させ、その方らしい終末期を過ごしていただけるよう支援していきます。

#### ◇本館特養2係

令和5年度は個人の成長とチーム力の向上を目標にご利用者に関わることはもちろん、職員間やすべての事柄に対し丁寧に取り組む姿勢を大切にしました。丁寧な対応には丁寧な言葉が戻ってくる。介助に対しご利用者から感謝の言葉をいただくことも増え、そのことにより職員のモチベーションの向上にも繋がり良い循環が見られています。

「記録内容の適正化と活用」という目標については、日々のカンファレンスやPDCAサイクルに沿った記録が不十分と感じています。記録時間を確保、記録内容の統一など多々課題はありますが、ICTの活用も含め充実した記録に向け取り組んでいきます。

ベッド稼働率については目標の95%は達成できましたが、入院実人数27人、入院延べ日数585日と多い結果となりました。持病の悪化を防ぐため早期発見、早期治療ができるよう、日々のケア（排泄介助、入浴介助、食事介助など）を適切に行い、ご利用者の状態把握に努める。まずはこの基本を徹底し、更に観察力を磨けるよう取り組んでいきます。

#### ◇新館特養1係

令和5年度は原点に立ち返り、様々な視点から業務内容を見直し、改善に努めました。現状の課題は何かを職員一人ひとりが考え、解決案を検討していく習慣が付けられるよう取り組みました。職員の経験値の差をお互いが理解し、教え教わる姿がみられ、少しずつですが改善が図れています。しかし、職員間での話し合いや意見を伝える中で配慮が足りなかったり、逆に配慮しすぎてしまったり、きちんと意見が伝えられないといった事も見受けられ、まだまだ努力が必要と感じています。

令和5年度、セクション内での新型コロナウイルス等の感染症の発生はありません



んでした。ショートステイ利用中の過ごし方や他セクションのご利用者との関わり方、ベッドコントロールについても検討し、感染症の予防に努め、発症してしまったとしても最小限に留められるよう対策を図ってきたことが成果とし現れたと感じています。今後も他セクションとの情報の共有を密にし、感染症予防に努めていきたいと感じています。

短期入所サービスの稼働率については、積極的にミドルステイ利用者を受け入れるなど新しい試みにも挑戦してきました。また、ご利用者の定着率の向上に向け、レクリエーションに力を入れ、毎月の季節の掲示物を作成し楽しい雰囲気提供、ご利用者とのコミュニケーションの充実を図ってきましたが、稼働率目標の達成までとはいきませんでした。今後も目標達成のためにも現状の取り組みを継続し、ご利用を楽しんでいただけるように努めて行きます。

#### ◇新館特養2係

認知症の進行に伴うBPSD（Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia：中核症状と行動・心理症状）について、専門職としてどのような対応が望ましいのか試行錯誤した一年でした。特に、認知症ご利用者の暴力行為やセクハラ行為について苦慮しましたが、医師の指導のもと内服薬の調整、そして、その後の様子について多職種と共有し常に検討を重ねています。また、日頃の関わり方についても良かった対応、失敗してしまった対応を職員間で共有し改善を図るなど、少しずつですがその方にあった対応が出来て来ました。常に話し合い独りで悩まない環境作りに心掛けることにより、臨機応変な対応、チームワークの強化につながり、強いては職員のレベルアップにも繋がったと感じています。

まだまだ課題は多くありますが、ご利用者が安心して過ごせるよう、支援方法について介護過程に基づき、その方にあった支援はどういうものか常に検討し実施していきます。

感染症対策では、今年度は新型コロナはじめ他の感染症も含め一人も感染者がなかったことは、職員一人ひとりの意識が向上し、スタンダードプリコーションが徹底出来たからと思っています。今後も感染予防の意識を高く持ち、ご利用者の安心できる環境を提供していきます。

#### ◇ユニット特養1係

令和5年度はご利用者の入退所も多く、看取り対応を希望される方も増加しています。看取り介護の実施についてはまだまだ多くの課題がありますが、お看取りをさせていただいた後、ご家族から感謝のお言葉をいただき励みになっています。更にご利用者のADL（Activities of Daily Living：日常生活動作）の低下、重度化傾向も顕著であり、入浴支援についてハードの部分での課題がありましたが、他セクションと連携し対応できています。

新型コロナウイルス等の感染症についてはユニット内でのご利用者の感染事例はありませんでしたが、職員、ご家族が感染症に罹患される等で一時的な人員不足に陥ってしまうことがありました。課内でのフォロー体制を見直し、協力し合う事で対応することができ、そのことにより職員一人ひとりがユニット棟 1F、2F のご利用者に対し理解を深め、業務の幅を広げられた事は成果と感じています。しかし、報・連・相が不十分な事もあり、セクション内でのトラブル対応や介護方法の再検討などがスムーズに行えなかった等の課題も挙げられます。

これらを踏まえ、令和 6 年度はご入所者の情報を共有し、状態の変化時、支援方法の再検討が必要な際などにはスピード感を持って対応できるような環境、仕組みを構築し、職員の育成にも励んでいきたいと思っております。

#### ◇ユニット特養2係

令和 5 年度は職員の諸事情のため休暇を頂くことがあり、勤務調整に苦慮した一年となってしまいました。そのような中でも、課内での協力体制を取ることで、対応ができたと感じています。ご利用者のケアでは、疾患などによりマンツーマン対応が不可欠となり、職員が心身ともに疲弊してしまった時期もありましたが、職員間でのコミュニケーションやフォロー体制が取れたことで大きな事故なくケアを行うことができました。

職員間の経験の差が大きく、統一したケアが継続できていない、できていない事に気付くのが遅れてしまう。ハード面などの修繕一つをとっても報・連・相が不十分であり放置されてしまったといった課題も散見されました。目の前のケアはもちろんです、介助で気付いたことを改善に繋げていくことが求められます。今一度、課題について職員が共通認識を持ち、改善に向け取り組んでいきます。

### ◆在宅介護課

#### ◇居宅介護支援係（ケアマネジャー）

中重度者や支援困難ケースの対応、年間研修計画を基に、週一回事業所内会議・研修の開催、外部研修への参加、他居宅介護支援事業所との合同研修会・事例検討会の開催を行うことにより、公正中立で質の高いケアマネジメントの実施をして、特定事業所加算Ⅲの算定の継続ができております。

新規ご利用者では、末期癌等の終末期の相談が増えており、短期間で早急な対応が求められることが多くなり、医療機関との連携が必要不可欠となっております。

地域の事業者は、訪問診療を行うクリニックや訪問看護ステーションが増えている一方で、訪問介護事業所の人員は乏しくなっている状況で、在宅で看取りを希望される方に対しては家族の関わり的重要性が増しております。

限られた資源の中、介護・医療・福祉関係者をはじめ、インフォーマルサポート

を含めた地域の方々と協働し、住み慣れた地域での生活を支えられるよう、利用者の日常生活全般を支援するサービスが包括的に提供されるよう努めました。

#### ◇通所介護係（デイサービス）

認知症の有無に関わらず、ご利用者の気持ちに寄り添いながら、今自立できていることを極力続けられるように、表情や行動の変化など観察と実践に努めました。

また、ケアの質が向上する為にもチーム力向上が必要ととらえ、ご利用者の情報が共有できるように、出勤時や申し送り時を中心に情報共有の実践を意識しました。今後は認知症ケアの学びや共有の機会を増やし、理解を深め日々のケアの課題解決の目安としたい。

稼働率 90%（1日 23名）を達成すべく半期で一度、利用実績を踏まえ新規獲得すべき利用者人数を設定しました。具体的にはご利用者同士や職員とも交流が図られ、楽しい環境となるように干し柿づくりや玉川公民館祭りの作品出品へ向けたフラワーアレンジメントなどを企画実施しました。今後も広告宣伝としても期待しているデイ通信や機関誌「清琉」、ホームページの活用・発信し、ご利用者やご家族からの口コミが促進されることを期待しつつ、日々の実践を分析し改善していく目安となるようにご利用者やご家族からのアンケート調査等を実施し目標達成へつなげたい。今後もご利用者が安全で安心できる環境を維持できるように、新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の予防に努めながら、安定した稼働率も確保できるように励んでまいります。

### ○総務部

#### ◆総務課

令和5年度は新型コロナウイルスが5類に移行されたものの、インフルエンザ等の感染症が通年での流行があり感染症拡大については油断を許さず、介護施設としては厳しい状況が続きました。職員に対してはスタンダードプリコーション（標準予防策）の徹底を呼びかけ、体調不安がある場合には抗原検査も積極的に行い、また不織布以上のマスク着用や消毒の徹底にも引き続き努めました。

前年度に引き続き車両の適正台数の見直しを行い、車検満了のタイミング等で廃車も行い台数削減を実施しました。

一方で設備・備品等についても経年劣化が著しく、スプリンクラーポンプ室の修繕やユニット2階のテレビの入れ替え等を行い、他にも様々な突発修理が発生しましたが、早急な対応に努めました。日頃より入所者やご利用者のサービス提供に支障がでないよう、現場職員にも不具合を早期発見し報告するよう周知し、また誤った使用方法での故障がでないよう注意喚起するなど管理面の徹底に努めました。

令和5年度は様々な物資や光熱費の高騰で財政面では厳しい社会環境となりましたが、毎月の運営会議にて光熱費の状況報告を行い、節電・節水等の協力を呼びかけ、国や県・市からの補助金・支援金や衛生用品等支給の申請を行うなどの対策にも努めました。

また、職員の健康管理推進の為、希望者には厨房で調理した栄養バランスの良いお弁当を安価で提供するなど、働きやすい環境作りにも努めました。

年度末においては育児休暇で休職中の職員が1名おりますが、育児休暇や介護休暇は今後も発生するものと認識して取り組んでいきます。一方で年度途中での退職者のまとまった有給休暇の消化により、勤務調整が難航するなど職員体制のフォローが課題となりました。

法人の窓口としては、ご利用者ご家族はもとより、来訪者の方等に不快な思いをさせないように意識して親切な対応を心掛け、適切に対応いたしました。

#### ◆栄養課

栄養課では個々の健康管理もしっかり行い、新型コロナウイルス感染症に感染した職員もおりましたが大きなケガ、事故はありませんでした。

イベントとしては恒例のかき氷、夏祭りミニイベントの協力、秋の味覚弁当、クリスマス、お正月の祝い膳も喜んでいただきました。行事食としても毎月の誕生会、祝日、七夕、お彼岸、節分、ひな祭りなど季節に合った食事を提供し、ご利用者に楽しんでいただきました。

栄養ケア・マネジメントも着実に進め新しく入所される方の栄養ケア計画の作成、ナースや介護職員とのモニタリング、介護支援専門員（ケアマネジャー）との担当者会議等出席させていただき、より一層個々の細やかな対応をこれからも行ってまいります。

#### ◆医務課

ご利用者の異常の早期発見・早期対応に努め、協力医療機関である厚木佐藤病院と連携し健康管理を、また治療の継続として服薬管理や処置を行ってきました。また介護職員が安心して業務に取り組むことができるよう、円滑なコミュニケーションと関係づくりに努め、ご利用者の情報交換や援助方法の指導を行い、異常の早期発見や早期治療につなげることができました。高齢になると抵抗力も低下し、持病の悪化や体調不良を起こすことは避けられないことではありますが、体調不良による苦痛が最小限となるよう今後も対応していきます。

施設内看取りの対応として、ご利用者の状態と今後の見通しなどを細やかに家族や介護職員に情報提供に努めるとともに、嘱託医の見解を踏まえご利用者がより良

い最期を迎えられるよう調整してきました。今年度は47件の退所（療養型病院への移行を含む）の中30件の施設内看取り（63.8%）を行い、ご家族や介護職員と共に穏やかなお見送りが行えました。施設内看取りに同意しているご家族でも、突然の状態の変化に動揺し病院での治療を希望することもあります。そのような時にも適切にサポートできるよう関わっていきたいと思います。

今年度は昨年同様、インフルエンザワクチン接種、肺炎球菌ワクチン接種に加え新型コロナワクチンの2回の追加接種を行いました。新型コロナウイルス感染症のクラスターはありませんでしたが、職員に感染者が確認された時はご利用者をはじめ介護職員への観察と対応の助言を行ってきました。今後も新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス感染症の発症の可能性は常に想定されるため、予防としてのスタンダードプリコーション（標準予防策）の徹底、感染時の対応等、状況に応じ医療面での対応を柔軟に行います。

### ●高松山グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護（グループホーム））

新型コロナウイルスが第5類移行された直後でしたが、6月から7月にかけて約1ヶ月間、施設内でご利用者・職員が集団感染してしまいました。世間の感染対応の緩和もあり感染症に対する気の緩みもあったと思われます。感染後の拡大は感染予防に対する知識不足と徹底不足が原因だと思われます。今回の経験を無駄にしないよう感染対策を見直し・徹底出来るようにしてまいります。

歩行不安定な方が多く、転倒による事故が多く発生しました。介護事故21件（内訳として転倒・転落18件、打撲2件、裂傷1件）あり、ヒヤリハットは100件ありました。予防策についてはカンファレンスを行い再発防止に努めてまいります。

令和5年度は入院者4名、延べ83日の入院がありましたが、1ヶ月を超える入院者はなく、早期退院に向けて病院と連携しました。

介護過程への取り組みでは、気付き検討シートを取り入れご利用者の介護を行う上で気付いた事や検討したい事などを記入することで、職員間で問題点を共有し、必要に応じてカンファレンスを行い問題解決に繋げています。取り組む中で課題も見つかり、居室担当者がご利用者ともっと向き合い、課題解決に向けて積極的に動く必要があります。令和6年度もご利用者お一人おひとりに根拠に基づいた適切なサービスを提供できるように努めてまいります。

地域行事には積極的に参加することが出来ました。今後も多くの地域の皆様に認識していただけるよう参加・協力し、有事の際には頼れる施設となるように努めてまいります。

加齢や認知症の進行、身体機能の低下・重度化等の理由によりご利用者の入居期

間が年々短くなってきています。入居期間が短くなることで新規ご利用者を確保する間もなく、次のご利用者を探し受け入れるという状況が続いています。

年間稼働率は 96.62%と前年度を上回りました。退居から入居までの期間と入院者と入院期間を短くすることが稼働率アップに繋がりました。特別養護老人ホームのあるグループホームという利点（次の施設を探さなくて良い）と、入居するまでの待機期間に法人内のショートステイを利用していただくなどをPRして、新規ご利用者の確保とスムーズにご利用者の受け入れが出来るよう、法人内での連携を密に取っていきたいと思います。

物価や光熱水費等の価格高騰により、今まで以上に省エネ、節約、ムダをなくすことが求められています。職員一人ひとりが意識し取り組まない事には成果として現れないため、目標値を設定するなど可視化することによって業務の改善と効率化にも繋がるよう努めてまいります。

## ●愛甲グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護（グループホーム））

新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防に努めて参りましたが、3月にコロナウイルス感染症が発生しました。感染予防に対する私たちの気の緩みもあったと感じています。今後は、このことを教訓としまして一層ご利用者の安心・安全な生活ができるよう努めて参ります。

実績に関しましては、計画目標の95%は維持することができました。しかし、余裕のある待機者が確保できず、申込みの時が必要時という傾向が年々強くなってきていると感じています。事前に面談などを実施して、空室のご案内がスムーズにできるように努めて参ります。

生活リハビリの充実を目標に掲げました。できることを個々に行なっていただき、自分の役割などを感じていただけたと思います。そして週末に足浴時間を設け、利用者に喜んでいただけました。他、季節の行事をアットホームな内容で実施し、その状況をブログなどに掲載しご家族からも反響がありました。しかし言葉遣いは十分に注意をしていましたが、認知症介護ゆえ思わぬ行動もあり、職員の感情を上手くコントロールできず、強い口調などが目立つときもありました。感情のコントロールをしっかりと行っていかなければなりません。

施設内の事故報告は11件と昨年度より2件減少できました。内訳としまして、転倒事故が9件、外傷の発見2件でした。事故原因は圧倒的に転倒が多い状況です。下肢筋力低下が原因です。リハビリ訓練、体操などを今後もきちんと取り組み、筋力維持・向上に努めて参ります。

地域交流としまして、自治会防災訓練や公民館まつりに参加させていただきました。

た。今後も積極的に交流し、地域との繋がりを大切にしていきたいと思ひます。

地域密着型サービス外部評価受審、公表制度の訪問調査があり対応いたしました  
が、調査を通じて新たな気付きもあり今後もサービスの質の改善を図って参ります。

## ●小町山グリーンホーム

### (サービス付き高齢者向け住宅(特定施設入居者生活介護))

開所8年目となりご利用者の重度化は進み、疾病により入院されそのまま退去を  
余儀なくされるケースや、認知症や精神疾患により周辺行動が増強し、関係医療機  
関との連携、職員の介護力を駆使した経過もありましたが、生活の安全性が保てず  
に入居後3カ月から半年で入院してそのまま退去されたケースもありました。この  
ような中、生活や健康情報及びヒヤリハット、事故発生後のカンファレンス内容を  
周知・徹底を図ることで統一したケアに努め疾病の悪化予防・事故防止に繋げるこ  
とができました。

職員間でポジティブな言葉かけや考えを取り入れ、チーム力向上を目標としまし  
たが、個々の取り組む姿勢にバラツキがあり、チームとしての機能を高めることは  
できませんでした。個々の意識改革は容易ではなく、大きな課題となっており改善  
策は見通しが困難ではありますが、できていること、良いところを伸ばせるような  
考え方を意識しながらチーム力の悪化を予防し維持に努めていきたいと思ひます。

食事提供の向上については嗜好調査の実施まではできませんでした。下半期に  
入りパン食の提供方法や味付けの多彩化に取り組み、調理職員と介護職員が協力し  
ながらご利用者の感想、意見を収集して喜んでいただける食事が提供できたと感じ  
ています。

## ●厚木市玉川・森の里地域包括支援センター

認知症地域支援施策として計画した「地域ぐるみで認知症高齢者を見守り支え合  
う意識の向上や環境整備に取り組む」では、市の協力を得て『VR体験会』を開催  
し多くの方にご参加していただきました。森の里小学校でも2年ぶりに4年生福祉  
授業の一環として『認知症サポーター養成講座』を開催できました。継続した取り  
組みが重要と考えています。

玉川・森の里両地区とも、アフターコロナとして内容を工夫しながら徐々に交流  
事業が再開され、活気が戻りつつあることを実感します。今後も事業への協力を行  
いつつ民生委員始め各団体と連携を深めながら地域支援に努めます。

自主開催事業『ふれあいデイサービス』は5月以降毎月の開催(第3金曜日)とな

り、国保年金課と協働して『フレイル予防教室』を開催など、「健康意識や自己管理能力を高められる事業の開催」として介護予防につながるように努めています。

令和5年度の新規相談158件の内訳では、認知症に関する相談が全体の7.7%で昨年度の4.7%より大きく数字を上げ、癌に関する相談も4.8%で昨年度の4.0%より増加しています。ケアプラン件数(要支援・事業対象者の方の介護保険サービス利用人数)も、月平均118.3件(3月は126件)となり、昨年度月平均105.8件から増加しています。老々介護世帯では、介護者の病気・怪我により介護が続けられなくなる相談も数件あり、今後の課題となりました。

これら地域の実情は『玉川・森の里見守り支え合い会議』等でも引き続き議題として取り上げて、地域の方と情報共有しご意見をいただきながら、地域ぐるみで事業を展開・環境整備を目指して、求められる「地域包括ケア社会」の中核機関としての機能が十分に発揮できるよう、さらに邁進してまいります。

## ●地域貢献事業等

### ○配食サービス(安否確認を目的とした配食事業)

栄養バランスのとれたお弁当を届けると共に、コミュニケーションを図り安否確認を行いました。提供食数は前年度より大幅に減少しました。福祉として食事提供が行われなくとも、地域の皆さんはしっかり栄養が取れているものと考えれば良いのですが、単に私達の情報発信不足なのではとも考え、改善に取り組む姿勢も必要と思います。

今後は高齢者の方のみならず、地域全体に対して出来る事を検討し、食事が持つ可能性を追求して行きたいと思います。

## ●委員会活動

### ○育成委員会

今年度は看取りに関する研修、医療に関する研修(高齢者の皮膚の特徴と観察ポイント)を実施いたしましたが、感染症の予防より、研修動画での研修会を試みました。

看取りに関する研修では、最期の場所に玉川グリーンホームを選んで頂く為にも、看取りについての理解度を深め、向き合い方・寄り添い方についての動画を作成し、研修をいたしました。

医療に関する研修では現在、皮膚疾患トラブル・症状悪化で入院に至るケースが増加していることを問題とし、研修を通じ、基本的なスキンケアについて確認し、



また、高齢者の皮膚の特徴や観察ポイントを学び、皮膚トラブルの予防に繋げていくことを目的とし、研修を行いました。

#### 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ                          | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|------------------------------|-------------|------|
| R5. 10. 2<br>～R5. 10. 31 | 看取りに関する研修                    | 委員会<br>メンバー | 173名 |
| R6. 1. 8<br>～R6. 1. 31   | 医療に関する研修<br>高齢者の皮膚の特徴と観察ポイント | 委員会<br>メンバー | 167名 |

#### ○介護技術向上委員会

今年度の当委員会は、認知症ケア、フレックスボード、喀痰吸引、褥瘡予防について研修を行いました。今年度は、フレックスボード研修で対面式での実技講習を実施することが出来ました。（施設介護課係長のための少人数開催）

研修内容がいかに現場に生かされ、ご利用者や職員の安心安全に繋がるようアフターケアが今後の委員会としての業務構築課題であります。

次年度に向け、毎年行う研修は固定動画としフォルダにまとめて各セクションで取り纏めてもらう等、簡略化することで委員会に求められている内容や、前回のアンケート結果を反映するなど、委員会独自の研修が実施できると考えています。

#### 1. 研修会開催

| 開催日                       | テーマ        | 担当                           | 参加人数 |
|---------------------------|------------|------------------------------|------|
| R5. 9. 1<br>～R5. 9. 14    | 認知症ケア      | 大道、三橋（一）                     | 156名 |
| R5. 10. 25                | フレックスボード研修 | 田中（康）                        | 7名   |
| R5. 11. 16<br>～R5. 11. 30 | 喀痰吸引研修     | 高橋（直）、木村、小林                  | 156名 |
| R6. 1. 15<br>～R6. 1. 29   | 褥瘡の予防と早期発見 | 田中（康）、田中（亮）、<br>高島（萌）看護師（協力） | 131名 |

#### ○サービス向上委員会

当委員会では、各サービスについての苦情・相談に対し、法人が定める苦情解決事業実施要綱に準じ適切な対応に努めてきました。

今年度は苦情・相談が7件、要望書が6件と、例年よりも多い件数となりました。職員の不適切な対応に関するご指摘を多くいただいております。職員一人ひとりが

普段行っているサービスについて改めて振り返り、改善とレベルアップに努めていかななくてはならないと感じています。また、ショートステイやデイサービスなど在宅サービスから多くのご意見があった背景には、ご家族がご本人からの声を取り上げていただいたことにあります。入所サービスのご利用者に対しては職員がその声に気づくことがより大切となり、ご利用者の声（気持ち）を汲み取れるように、委員会としての機能を果たしていきたいと思っております。

サービス向上に向けた取り組みとしては、法人の全職員を対象に8月に「介護現場で求められる接遇マナー」、1月には「メラビアンの法則から学ぶ」をテーマとした研修を行いました。委員会で作成した資料をもとに、全職員がアンケートに答えて、自身の日頃の言動を改めて確認しました。今後もサービス向上が図れるよう、自身を定期的に振り返えられる機会の提供や注意喚起、そして各セクションで、サービス向上に繋がられる具体的な取り組みが実施できるよう促していきたいと思っております。

1. 苦情・相談受付件数 7件

- 玉川グリーンホーム 新館特養1係（ショートステイ） 4件
- 玉川グリーンホーム 通所介護係（デイサービス） 3件

2. 要望書受付件数 6件

- 玉川グリーンホーム 通所介護係（デイサービス） 3件
- 玉川グリーンホーム 本館特養1係 1件
- 小町山グリーンホーム 1件
- 玉川・森の里地域包括支援センター 1件

3. 苦情相談外部委員会の開催

- 第1回苦情相談全体委員会 令和5年10月（上半期）
- 第2回苦情相談全体委員会 令和6年3月（下半期）

4. 研修会開催

| 開催日                     | テーマ             | 講師          | 参加人数 |
|-------------------------|-----------------|-------------|------|
| R5. 8. 14<br>～R5. 8. 31 | 介護現場で求められる接遇マナー | 委員会<br>メンバー | 153名 |
| R6. 1. 15<br>～R6. 1. 31 | メラビアンの法則から学ぶ    | 委員会<br>メンバー | 166名 |

○事故防止検討委員会

今年度の取り組みとしては、昨年度からの課題であったヒヤリハット・事故の内容を改めて精査し、レベル分けをした上で内容を可視化して法人として統一した基準を設けました。統一した基準を設けることで職員個人での判断にならず同じ対応

が出来るように目指し今後も細かな疑問や意見があれば改善を図っていきます。また四半期毎にセクション単位でヒヤリハット・事故の集計・分析を行い法人全体で情報共有を行いました。研修では年に2回、事故発生時対応と事故発生予防の研修を実施し、職員個人の知識や意識向上へ努めました。

#### 1. ヒヤリハット、介護事故発生状況

| 各事業所・セクション名 | ヒヤリハット | 事故  |
|-------------|--------|-----|
| 玉川グリーンホーム   |        |     |
| 本館特養        | 59     | 61  |
| 新館特養2係      | 82     | 45  |
| 新館特養1係      | 112    | 80  |
| ユニット特養      | 57     | 61  |
| デイサービス      | 13     | 7   |
| 栄養課         | 15     | 0   |
| 高松山グリーンホーム  | 100    | 21  |
| 愛甲グリーンホーム   | 64     | 11  |
| 小町山グリーンホーム  | 83     | 61  |
| 合計          | 585    | 347 |

#### 2. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ                             | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|---------------------------------|-------------|------|
| R5. 10. 1<br>～R5. 10. 20 | リスクマネジメントと<br>危険予知トレーニング        | 委員会<br>メンバー | 182名 |
| R6. 1. 1<br>～R6. 1. 20   | 緊急時対応 高齢者が転倒した！<br>その時アナタはどうする？ | 委員会<br>メンバー | 173名 |

#### ○拘束廃止・虐待予防実践委員会

2年目を迎えた当委員会は、「身体的拘束等の適正化」および「高齢者虐待防止」に関する研修を全職員対象に各2回実施しました。また、5年ぶりに「身体的拘束等の適正化のための指針」の見直し・改正を行い、ご家族・ご利用者に向けて身体拘束に関する説明書や身体拘束リーフレットを作成するなど書類の整備を行いました。

次年度に向け、研修はもちろん、高齢者虐待防止に関する指針の見直し・改正、身体拘束等の廃止と虐待防止に向けた啓発活動を積極的に進め、職員に対し適切な知識や情報の共有、ご家族等のご理解・ご協力とご利用者の安心・安全につながるよう努めてまいります。

## 1. 身体的拘束適正化検討委員会

第1回 令和5年 4月18日

第2回 令和5年 7月18日

第3回 令和5年 10月18日

第4回 令和6年 1月17日

各事業所における身体的拘束について現況を確認・情報を共有しています。現状では身体拘束は行なっておりませんが、言葉遣いや態度が不適切ではないかと思われる事例もあり、法人全体での課題と捉え改善に向けて取り組んでまいります。

## 2. 研修会開催

| 開催日                       | テーマ   | 実施内容             | 参加人数 |
|---------------------------|---|------------------|------|
| R5. 8. 1<br>～R5. 8. 20    | 身体拘束及び虐待防止研修「よりよい介護をめざして」～不適切なケアを考える（入浴・排泄編）～ | 動画視聴・アンケート形式     | 164名 |
| R5. 11. 13<br>～R5. 11. 30 | 身体拘束廃止研修 身体的拘束等の適正化のための指針研修                   | 穴埋め問題・アンケート形式    | 161名 |
| R5. 12. 11<br>～R5. 12. 31 | 虐待防止研修 高齢者施設における虐待防止に係る一斉点検                   | 自己点検シート（チェックリスト） | 135名 |
| R5. 3. 1<br>～R5. 3. 24    | 虐待防止研修 高齢者虐待防止に係る一斉点検の振り返り研修                  | アンケート形式          | 162名 |

## ○ICT推進委員会

ICT推進委員会では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことなどを受け、対面での会議に切り替えました。スタンダードプリコーションを遵守し、感染症のリスクがある際は柔軟に対応していくことが求められています。その手段の一つとしてICT推進の必要性があると考えております。また、課題としては非常時に備えて、常々より指揮系統の確認、情報共有があげられます。

機関誌「清琉」作成においては、前向きな話題やレイアウトの工夫により、読まれた方からご好評をいただきました。引き続き印刷通販業者を活用しコストダウンに繋げておりますが、7営業日前割引が終了し4営業日前割引に移行したため、前年度に比較し実質的な値上げとなりました。

今年度の研修会は、ご利用者が安心して利用できる施設となるよう、各事業所・各セクションにおいて、個人情報保護への取り組みについて確認をするため、法人

内全職員対象に動画を視聴し、各自にて個人情報保護・プライバシー保護に関する設問に答え、アンケートを提出していただきました。全職員が個人情報保護のための気づきを得る一つの機会になったと感じられました。

1. 機関誌「清流」制作

第 71 号 令和 5 年 9 月 30 日発行

第 72 号 令和 6 年 3 月 31 日発行

2. ホームページの月間予定等お知らせ、ブログの管理・更新

3. 研修会開催

| 開催日                    | テーマ                    | 講師          | 参加人数  |
|------------------------|------------------------|-------------|-------|
| R6. 1. 4<br>～R6. 1. 25 | 個人情報保護について基本的な理解への取り組み | 委員会<br>メンバー | 160 名 |

## ○環境衛生委員会

令和 5 年度は 11 回の委員会開催、3 回の研修と 2 回の訓練を行いました。

感染予防のため、各セクション単位の研修や動画による研修となりましたが、多くの職員が参加することができ、感染対策への意識・技術の向上につながったと思われま。また職場の安全衛生に対する必要性についても考えることができました。

新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な感染症の拡大が懸念される昨今、更なる感染対策とその徹底が必要とされています。感染症版 B C P（業務継続計画）を作成出来たが、次年度以降の見直しをと、これに基づき毎年繰り返し研修・訓練を行い、必要な時に正しく実践ができるよう繋げる必要があります。

また、労働衛生安全法に基づく衛生委員の役割として、労働災害や健康管理を啓発する活動も繰り返し行っていきたくと思います。

1. 研修会開催

| 開催日                    | テーマ                              | 講師          | 参加人数  |
|------------------------|----------------------------------|-------------|-------|
| R5. 7. 6<br>～R5. 7. 30 | 高齢者施設における食品衛生<br>～食中毒防止と手洗いの重要性～ | 委員会<br>メンバー | 146 名 |
| R5. 9. 7<br>～R5. 9. 30 | 高齢者施設における安全衛生教育                  | 委員会<br>メンバー | 151 名 |
| R6. 2. 1<br>～R6. 2. 29 | 感染症 B C P と今年度研修知識の確認            | 委員会<br>メンバー | 141 名 |

## 2. 訓練実施

| 開催日                      | テーマ                | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|--------------------|-------------|------|
| R5. 11. 2<br>～R5. 11. 30 | 感染予防とスタンダードプリコーション | 委員会<br>メンバー | 159名 |
| R5. 12. 7<br>～R5. 12. 30 | 嘔吐物の処理             | 委員会<br>メンバー | 132名 |

### ○防災対策委員会

今年度も玉川グリーンホーム、高松山グリーンホーム、愛甲グリーンホーム、小町山グリーンホームにて各事業所の立地条件により起こりうる災害を想定した訓練を行いました。また小町山グリーンホームでは消防機関合同避難訓練を実施し、地域との連携を深めることができました。

数年前から取り組んでいた自然災害版BCP（業務継続計画）の原案を作成することができました。有事の際に役立てられるよう、継続的に見直し、更新を行っていきます。

今年度、業務継続計画の内容に沿った訓練として、災害発生後の施設内状況の報告訓練を実施しました。初めての取り組みで課題は多々ありますが、今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。

研修会では、業務継続計画に照らし合わせ、大地震が発生した際の業務について、ワークシートを用いて職員一人ひとりで考え、各セクションでグループワークを実施しました。今回の研修では、災害時に限られた人数や物資で日々の業務を進めていくか、職員一人ひとりが考える良い機会となりました。

来年度は、業務継続計画の内容に沿った訓練、研修を2回ずつ行うことが義務付けられます。委員会内で内容を検討し、計画的に実施していけるよう努めていきます。今年度行った訓練については、反省を基に訓練内容を見直し、有事の際に役立てられる訓練や研修を行っていききたいと思えます。

#### 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ  | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|--|-------------|------|
| R5. 11. 1<br>～R5. 11. 30 | 業務継続計画（BCP）に沿った大地震が発生した際の業務について<br>（個人ワーク・グループワーク<br>ワークシート活用） | 委員会<br>メンバー | 147名 |